

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



「漢字ドリルを自分に合ったやり方で」

まなびの教室の担当となってから、自分がよかれと思って取り組んできたことが、どうもそうばかりではなかったらしいと気付かされる毎日です。そのひとつに漢字ドリルがあります。まなびの教室に通ってくる児童や保護者とのかかわりの中での一コマを紹介します。

① 拡大・縮小

学年が上がってくると、「漢字ドリルの○頁」という宿題の出し方をします。ドリルに示された文字の大きさは漢字ノートに書こうとしている文字の大きさとはちがいます。頭の中で、無意識のうちに「拡大」をしてからノートに書いているのです。

文字のバランスが取りづらい児童の保護者に提案したことがあります。「漢字ノートのまずに書く文字の大きさと同じくらいの大きさにドリルの文字を拡大してみましょう。」と。

同じ大きさに書けばいいという安心感を得られます。漢字の細部に目が行くようにもなります。お手本を大きくすることで、書字作業において「拡大・縮小」という余分な作業をなくし、「同じように書く」ことに集中させることがねらいです。

② 応用

漢字ドリルの文をくり返し写すことで漢字に慣れていきます。まなびの教室に通ってくる児童には、ドリル通りの問題なら正しく書くことができるけれど、問題文が変わると正しく書けなくなる児童がいます。

漢字の使い方の勉強につながるように、「ドリルの文を変えながら書いてみませんか。」と提案したことがあります。

例) 朝(あさ):ドリル 朝日がのぼる。

自作文 朝日がまぶしい。

自作文 朝ごはんを食べる。 など

「朝(あさ)」の漢字の読み方、使い方を覚えることがねらいです。



③ 集中

自分自身の子どもの頃もそうでしたが、漢字ドリルの宿題が出ると、必ず番号の小さい順に漢字ノートへ書いていました。まなびの教室に通ってくる児童には、くり返しに飽きてしまい、ワンパターンになるとつまらなく感じてしまう児童がいます。

そんな時、「書き写す問題の順番に変化をつけてみませんか。」と保護者に提案します。漢字の書き取りの宿題で大事なことは、ドリルの順番通りに写すことではありませんから。

例) ○偶数問題から書き写す。⇔奇数問題から書き写す。

○自分が書き写したい順番で書き写す。⇒写したところ、写していないところの区別の記憶の訓練にもなる。

○大きい数字の問題から書き写す。

「写す(書く)」という活動を通して、漢字の形や使い方を覚えることがねらいです。

このように、やり方を少し変えるだけで、宿題に気持ちよく取り組めるようになる子がいます。「うちの子もそうかもしれない!」と思った方は、是非お試しを!そして、「効果がありそう!」と思われたら、このコラムを見せながら、担任の先生にやり方の変更を相談してみてくださいね。